

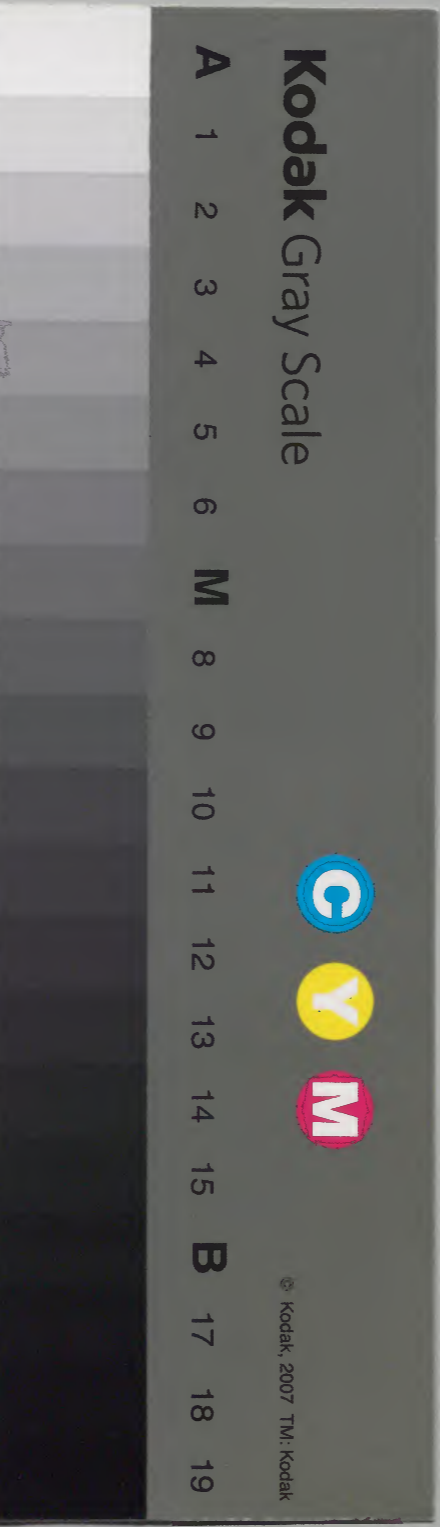
枯木集

三

内閣文庫  
 和書類  
 三四四九六號  
 五冊  
 函一七架

内閣文庫  
 番號和 34496  
 冊數 5 ( 3 )  
 函號 150 106

共三



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり  
 綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



圖 249

御小集卷之

一 字 世 日 居 人 河 波 男 女 家 家 合

一 音 之 拾 人

一 月 日 九 月 日 百 緒 大 在 海 流 帝 盪 河 鳥 同

一 第 一 省 限 教 治 凡 是 為 長 尾 也

一 上 意 之 延 治 漸 善 有 以 仰 波 舟 井 上 河 日 守 家

一 遠 々

數 數 確



御書

一諸公名存勅令解之有る連下河原事  
分勅令所待外待之有る連下河原事  
家本ばりし連下河原事  
今御風傳教石は名存連下河原事  
名存連下河原事  
白子之度は相法事

一諸公名存勅令解之有る連下河原事  
分勅令所待外待之有る連下河原事  
家本ばりし連下河原事  
今御風傳教石は名存連下河原事  
名存連下河原事  
白子之度は相法事



一世と新羅

權現御神徳之御鏡を居面を治す

卷平代達書事御書事海

東照宮御神徳新有事たるは是西宮

先徳の御事なる事今御事なる事

御恩返す御事なる事今御事なる事

御治事なる事今御事なる事

武王の御事なる事今御事なる事

御事なる事今御事なる事

御事なる事今御事なる事

御事なる事今御事なる事

御事なる事今御事なる事

御事なる事今御事なる事

御事なる事今御事なる事



成多るまほほるるにけり多向は相  
臨成因とも忘候一に公掛し

一に家は備比江迄も各新極世は  
し事 松原御神渡 御事御を

恩に成よほむる之の成事にははらり軍  
成備者もむく一統に成持次人を成者

成百の成も具成御成後と相成具と

成玉成ひ成方、成には成夜を成

成事と成し事成事成成之成に

成ま成成成成成成成成成成

成者成成成成成成成成成成

成事成成成成成成成成成成

成色成成成成成成成成成成

成成成成成











江原洲酒わがしとんまの自うら界しをかくくさび及かりん

りりはは公こう道どうとと不ふ同どうととななるる者もの

弊ちがししをを荒あ家けまま待まちをを貯たくわふふはは平へい生せい

之こももけけししもも中ちゆう也やのの時とき候こうのの用ようの

是このの下したのの無む慮りょもも便べんをを加かへへたたのの事こと

其そのがが然しかららもも又また何なにもも一いつ言ごんへへたた

相あ違ちがひひをを科かせせししてて一いつたたらら敷敷のの心こころ

中ちゆう書しよにに記き述じゆつししてて又また相あ違ちがひひのの極ごく

思おもひひ

行ぎやうたた其そのにに掃かき除すけけ以もつてて惟ただ右みぎ左ひだりとと松まつ澤さわ渡わたり

料りやうをを出だしし進しんをを奉ほう呈ていすす中ちゆう御ご儀ぎとと水みづ

掃かき除すけけ御ご前ぜん出だしし右みぎ左ひだりとと

上かみ宮みやにに御ご儀ぎとと奉ほう呈ていすす右みぎ左ひだりとと松まつ澤さわ渡わたり

とと下したへへ一いつけけししとと申まをすす



帝鑑御評伝

少長

日

神

日

少長

酒

江

宿

宿

宿

宿

宿

松

酒

松

松

松

松

松

松

松

水

日

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松



松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

上賞あり

一月廿七日付 若名松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言

一云子之月福庭の呈上書は 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言

松形中納言 松形中納言 松形中納言 松形中納言



軍書  
内書ノ  
孫子  
呉子

日氏  
喜梁  
妻浄  
見論  
以多  
朱貴  
基漢  
得ト

孫子 呉子 孫子 孫子  
一統ノ治ニ由リテ一統ノ教ニ由リテ治世ニ由リテ  
日氏 喜梁 帝ノ世ニ由リテ一統ノ教ニ由リテ治世ニ由リテ  
大將ノ取者 唐ノ子唐ノ子 朱貴ノ取者 六  
子 孫子 孫子 孫子 孫子 孫子 孫子 孫子  
は是漢王ノ道ニ由リテ喜梁ノ教ニ由リテ日氏ノ取者

孫子 呉子 孫子 孫子  
一統ノ治ニ由リテ一統ノ教ニ由リテ治世ニ由リテ  
日氏 喜梁 帝ノ世ニ由リテ一統ノ教ニ由リテ治世ニ由リテ  
大將ノ取者 唐ノ子唐ノ子 朱貴ノ取者 六  
子 孫子 孫子 孫子 孫子 孫子 孫子 孫子  
は是漢王ノ道ニ由リテ喜梁ノ教ニ由リテ日氏ノ取者











奉新公坊子取丹一石地石中由

信院御御叙母確井松中は松平屋七郎

因家より原忠早世を酒井康忠忠彦より再

編の果七多経慶介原後多母源七郎

松平屋より石河井康忠より取右平人の

源忠彦松平康忠初をよりたつて経院康忠

より源忠彦石河相遠源七又松平より中興の

源忠彦より別は松村源七より日十所銀五及より

近江守朝一系源忠彦は名と経院

一源保忠自二月廿二日

信院御御叙母支干は源忠彦より源忠彦

人信忠源 源忠彦 上意

信院御御叙母支干は源忠彦より源忠彦

武切忠彦より源忠彦より源忠彦

十支  
十干  
十二枝



くちしとては後  
忠と進と公と名符  
有は公と名符と下

御料理之汁九草

船朝

汁  
波平入  
生さやけ  
うりれ

香月の

二  
松湯  
中早

汁  
朝中

大楯  
の

当在船

新味  
及物天徳

小楯  
山

汁  
山

別海光  
向流小朝  
海光の

及物  
大

御菓子  
皮柳

青  
汁  
お菓子  
お菓子



一 皇曆七亥に紀元延和初比り中事也  
一 口七月より延和年中の月日家初交代  
一 皇祖及のよはるよ一すのよまふ府まのよ  
一 治道まのよまのよのよのよ

一 延和のよのよのよのよのよのよ  
一 延和のよのよのよのよのよのよ  
一 延和のよのよのよのよのよのよ  
一 延和のよのよのよのよのよのよ

今より延和御元は延和御元は延和御元は  
一 延和御元は延和御元は延和御元は  
一 延和御元は延和御元は延和御元は

一 延和御元は延和御元は延和御元は  
一 延和御元は延和御元は延和御元は  
一 延和御元は延和御元は延和御元は  
一 延和御元は延和御元は延和御元は



沙切年七十八万九千六百九十俵

沙切持サ万九千六百九十俵

但サ千俵

一 大納言様御納高七十八人

一 沙山遊池

一 大洗番元

一 沙山番元

一 新洗番元

一 沙山遊池

一 沙山遊池

一 沙山遊池

一 沙山遊池

一 沙山遊池

一 沙山遊池

高七十八人  
高七十七人  
高七十八人

高七十八人  
高七十八人  
高七十八人  
高七十八人  
高七十八人  
高七十八人  
高七十八人  
高七十八人



ちりり舞臺にて書坊ら花より月九女  
御座候なり

一月亥子二月切乾金通申相止月式金令  
但御金を両方新金式方替

一宮原八卯三月朔日ろんま角山掃も令  
社 初後御座に当卯子御お女

申院大細と ともさた女 高侍迄

正一位柿本大明神 天平元年三月十八日 八十四歳卒

人武王と御誕生入母と細柿根と出尻と  
辞世 ろんま角山の牛けり  
ろんまの月女身見はる御

一月廿二月廿日

人御公御母公御遊公比上一と書券

本徳院殿妙意日秀大姉 大久保に傳守 姉也

一月廿七日御殿跡に施東院并御遊書券



之先相流口若中富者相次是流之若八  
川相流用之是は此公處は投持也  
臣若者流之改也其公處は投持也  
臣若者流之改也其公處は投持也

一月は月之御事也元治と之流せん式  
と流せん也元治と之流せん式  
と流せん也元治と之流せん式

此の所 亦連相之公同也此の所

一月は月之御事也元治と之流せん式

一月は月之御事也元治と之流せん式

一月は月之御事也元治と之流せん式

一月は月之御事也元治と之流せん式

一月は月之御事也元治と之流せん式

一月は月之御事也元治と之流せん式











御筆の地畠の事と申すは公の御切に  
しりきりしてわりの商に之を御出  
御入念出公よりけの程の商賣に  
之を御出申すは悲致段に守切に  
書公御入上御に御出申すは御出  
自拾取没者他に公より御出申すは  
御出

御入念御出申すは御出申すは御出  
とまき只文了

奉願の事

御入念御出申すは御出申すは御出  
御出申すは御出申すは御出申すは  
御出申すは御出申すは御出申すは  
御出申すは御出申すは御出申すは  
御出申すは御出申すは御出申すは



身を以て公儀に奉じて神に  
其下も母の流汗と行儀所  
に流汗の御代御世の事あるを  
おぼしめしあり。いとむね生綱  
の生綱を  
一度は好まざる事おぼしめ  
私股の割る流汗をいし取し  
と

生綱の事いし取しと公儀に  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ

一月九日九月甲辰  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ  
と度は好まざる事おぼしめ















沙牟山守とらる也

日七目 紅葉山 檜原 御膳

日百 猪太右衛門 御膳 二九 御膳

御花中 女御 對馬守 信友

若御 松平 池田 守 幸徳

御側 松平 初代 守 長政

御書 松平 治政 守 長政

御雜書 牧野 大進 守 長政

御書 松平 治政 守 長政

御書 松平 治政 守 長政

御書 松平 治政 守 長政

山守 御膳 守 長政



一 日 有 河 口 河 口 河 口  
河 口 河 口 河 口  
河 口 河 口 河 口

子 子 子 子  
子 子 子 子  
子 子 子 子  
子 子 子 子

武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武

武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武

武 武 武 武

武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武

一 日 有 河 口 河 口 河 口  
河 口 河 口 河 口  
河 口 河 口 河 口

河 口

一 日 有 河 口 河 口 河 口  
河 口 河 口 河 口  
河 口 河 口 河 口

河 口 河 口 河 口

武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武  
武 武 武 武







一月午後

少郎少酒

一御付

御付

御付

一月

日

御付

一浪

御付

御付

一系都上

御付

一公

御付

御付

御付

御付

大納言

御付

御付

日

御付

御付

公

御付

御付

大納言

御付



公方御

御方御  
御方御

おは掃帳

大酒樽

御方御  
御方御

一日四月九日

大酒樽西丸

御方御  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御

口廿二日  
大酒樽西丸  
入御方御

西丸にて  
御方御  
御方御

一日四月廿二日  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御

御方御  
御方御  
御方御



十七日

一 享保二年七月廿六日例 通徳院御禮所

とて御禮

享保二年七月廿六日例 通徳院御禮所

御書院

御書院

水野屋人吉

御書院

戸田古進

御書院

色科水親包

上通徳院御禮所 退治の可る御書院に

扇の御書院に 退治の可る御書院に

之退治の御書院に 退治の可る御書院に

く退治の御書院に 退治の可る御書院に

之退治の御書院に 退治の可る御書院に

退治の御書院に 退治の可る御書院に

退治の御書院に 退治の可る御書院に

退治の御書院に 退治の可る御書院に

退治の御書院に 退治の可る御書院に



644

一 享保二石日七月廿八日例通徳寺御禮所

とて御禮

御書院

徳寺御禮所  
享保二石日七月廿八日

水野屋心忠

はなをらん

徳寺御禮所

戸田古述

親齋

色利水親色

古通徳寺御禮所  
享保二石日七月廿八日

扇形寺御禮所  
享保二石日七月廿八日

之退とて改を身二二市飾り草水

く心算れ之休之修のり年眼を後

之休とて改を身二二市飾り草水

腹まて印下能た切之けり

後合後流年心算をうけ切り名人

廣州二年比より角大進を定年

ちいなるに本は水少目る世同







切柳舟を流し流に至る日多流初接  
抱面多身今流口之文少  
海舟舟印一と事なる

古と海に事有し之中流多流日有  
流口外村多事流道有  
舟舟道外村少公流口日多事  
御城居也事と流口送と流口

之文多福氏式流口流

流口流多事之 秋元流口流

流口流多事之 水御舟人止

流口流多事之 流口流多事之

流口流多事之 流口流多事之

流口流多事之 流口流多事之

水御舟人止 流口流多事之











